

所管事務調査報告

総務経済常任委員会

○日時 平成19年10月25日～26日
 ○行き先 新潟県柏崎市
 ○テーマ 災害ボランティアへの参加及び被災地住民の現状視察

I. 被災地の現状

平成19年7月16日に発生した地震の爪あとはいまだ市内の各所に残り、歪んだ道路は未整備で、倒壊した住宅はシートで覆われ改修の順番を待っています。が、まだまだ沢山残っています。

仮設住宅は市内各所に多く見受けられ、その一軒のお宅でお聞きしましたが快適であるという返答が戻ってきました。柏崎市福祉協会で生活支援



ボランティア要請をされた寺沢さん（右から2番目）と現地にて

相談員を17名配置し6班に分け、日々生活相談や心のメンタルケアにとめていました。現在のボランティア作業の多くは、住宅改修における粗大ゴミの回収、分別が主になりつつありますが、災害で発生したものなのか、また、日常生活で発生したものなのかの判断に迷うという課題が残っています。

II. 研修場所

『近隣の地盤補強』 私たち委員会は、その時要請のあった地盤補強のボランティアに参加し、現場で他のボランティアの方々にしっかりと話を聞き、共に汗を流しました。ここで2ヶ月ほどボランティアを続けておられる大久保さんが、「自分は神戸の震災で被災したが、そのときのボランティアの方々の献身的な援助への、返礼である」と言った言葉が印象的でした。

社会文教常任委員会

○日時 平成19年10月10日～11日
 ○行き先 岐阜県関市・静岡市
 ○テーマ クリーンプラザ中濃及び沼上清掃工場の視察

I. クリーンプラザ中濃

視察した流動床式ガス溶融炉は、ほとんど問題なく稼動しているとのことでした。流動床式ガス化炉では砂が流動することに、大きなサイズの不燃物・有価金属類でも排出することができないことが、うまく稼動している要因の一つと思われました。しかも、有用な金属をリサイクル可能な状態で回収できて



クリーンプラザ中濃にて担当者より説明を受ける

いました。掘り起こし灰を、処理量の15%まで入れることが可能とのことですが、10%で抑えているとのことでした。現在、最終処分場にはスラグも飛灰も埋めていません。しかし流動床の砂の処理が今後の課題とのことでした。

II. 沼上清掃工場

過去に、大きな事故を起こした施設だけに、職員の皆さんの緊張感が高かったように感じました。事故後の安全性の対応も、耐火物の補修・周期の変更、検査も年2回から4回実施など、取り組まれていました。今までの経験から、側壁下部の温度管理が重要との話もありました。